

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[29]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士]、同様の活動[]、任務[機関員]
○当事者B	年齢[50]歳、勤続年数[27]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士長]、同様の活動[]、任務[]
○当事者C	年齢[23]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士]、同様の活動[]、任務[]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	左折をする（進入路右側にグレーチング有の認識あり）	車両の影になり、どの程度の長さか確認していなかった
経過2	B	地図による現場確認中	
経過3	C	持参資器材を点検中	
経過4	A	内輪差を見ながら進入、ブレーキ踏んだ際、右前輪タイヤがすべり、車両が右方に流れる	
経過5	A	右前輪がグレーチング切れ目の側溝に脱輪する	
経過6	A	逆ハンドルにて後退、脱出する。	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○負傷事故の場合：負傷事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険事象の対応方法を知っていた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。現場周辺の地理を知っていた。たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・ 活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	はい
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・ 足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・ 隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・ 隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：グレーチングの認識はあったが、切れているとは考えなかった
